中二病（厨二病）学概論

定義・概要

中二病（ちゅうにびょう）は、中学２年生（14 歳前後）で発症することが多い思春期特有の自意識過剰やコンプレックスから発する思想・行動・価値観が過剰に発現した病態である（命名は伊集院光）。

多くは年齢を重ねることで自然治癒するが、稀に慢性化・重篤化し（中二病をこじらせ）、社会生活を営む上で障害となることがある。

特異的な身体症状や臨床所見は見出されていない。「病」という表現を含むが、実際に治療の必要とされる医学的な意味での病気または精神疾患とは無関係である。

分類

ライトノベル作家塞神雹夜（さえがみ ひょうや）の『中二病取扱説明書』によると、主に以下の３つのタイプがあるという。

DQN 系
: 反社会的な行動や不良を演じ、格好いいと思い込んでいる。根はまじめだったり臆病だったりするので、本当の不良にはなりきれない。喧嘩や犯罪行為に対する虚言が多い。「DQN」とは『反社会的な人』や『迷惑な不良系』を表すネットスラング。

サブカル系
: 流行に流されずマイナー路線を好み、他人とは違う特別な存在であろうとする。別にサブカルが好きなわけではなく、他人と違う趣味の自分は格好いいと思い込んでいる。

邪気眼系
: 不思議な・超自然的な力に憧れ、自分には物の怪に憑かれたことによる、発現すると抑えられない隠された力があると思い込み、そんなすごい力がある自分を格好いいと思い込んでいる。また、そういった設定のキャラクター作りをしている。

具体的症例

・自分は特別な存在だと思い込む
・急に洋楽を聴きはじめ、その一方で邦楽を否定しだす
・急に詩を書きはじめる
・突然ブラックコーヒーを飲みだす
・急に母親に冷たくなる
・やたらバンドを組みたがる
・メディアやインターネットで仕入れた知識を自分の考えであるかのように語る
・やれば何でもできるかのような万能感を感じるが、実際に行動に移すことは少ない

・様々なものを批判しはじめる一方、ある種カルト的なものを崇拝する
・愛想がなくなり、孤独を好むようになる（いわゆる“孤高”）
・自分の部屋に親が入ると、プライバシーが何とか云々などと屁理屈を言って怒る
・やさぐれる
・午前２時まで起きている
・「サラリーマンにだけはなりたくねーよなぁ」と言い出す
・売れたバンドを「売れる前から知っている」とムキになる
・「因数分解が何の役に立つんだよ」「大人は汚い」などと言い出す
・母親が何か言おうとしようものなら、その声にかぶるように「わかったよ！」「わかってるよ！」「うるせ〜！」と言って聞かない
・本当の親友探しを始めたりする
・社会の勉強をある程度して歴史に詳しくなると「アメリカって汚いよな」と急に言い出す
・急に洋服のトータルバランスはそのままなのにジェルを使い出す
・曲も作れねーくせに作詞を始める
・プロに対して評価が辛い
・「僕（私）は僕（私）で誰かじゃない」と言い出す
・あれだけハマっていたのに「ポケモンはガキ向け」と言い出す
・プラモデルやプロ野球カードなどこれまで自分がコレクションしていた物が物凄く子供っぽく見えるようになり、急に処分する
・急にラーメンの美味い・美味くないを言い出す
・赤川次郎あたりを読んで自分は読書家だと思い込む
・やたらに低音を強調して音楽を聴く
・人と違うキーホルダーをとりあえず付けてみる
・自転車の乗り方に無駄なアクションが入る
・サングラスを買う
・自分の家族を友達に見られたくない
・中二病というキーワードが気になって調べる
・クラスメイトとどこか違う感じを出したがる
・中二曲（ボカロなど）に異常に入れ込む
・陰謀論で世界を語る
・自分がいなくても世界は変わらないと言い出す
・一方、世界征服する、世界を破壊するなどと言い出す
・自分以外の全ては間違っていると考える
・自殺や早世をした人物に憧れる
・声優や漫画家やゲームクリエイターになりたいと言い始める
・変身願望（コスプレなど）が強くなる
・孤独を愛すると言いつつ本当は愛されたい
・放っておいてと言いつつかまってちゃん

以上のほかにも様々な症状が確認されているが、共通するのは自意識過剰と大人社会への反抗、自分を良く見せようとする自己顕示欲、あるいは自己陶酔、リア充に対するコンプレックス、思春期に独特の性的モヤモヤ感などである。

参考（中二曲に特徴的な当て字、熟字訓）

意志（もの）想像（まぼろし） 悪夢（まぼろし） 感情（とけい） 黒天（まよなか）
影（やみ） 歴史（とき） 宇宙(てん)の宝石(ほし) 僕の答え（しんじつ）
愛（いのち） 夜（かげ） 自分（いま） Diamond dust（てんしのささやき）
瞬間（じかん） 転生（トラップ） 血（いと） 思惑（ワナ） 本音（ことば）
神話（ほし）女神（てんし）幻想（あした） 背中（バックショット） 希望（あさ）
本能（げんじつ） 限界（おわり） 空虚（やすらぎ） 人形（モノ）
楽譜（メロディのちず） 本性（じゅうじか）遊戯（いたずら）本能（メロディ） 現実（いま）体温（ねつ）支配する（いだく）

高二病

高二病とは、中二病に対し過剰なほどの嫌悪を抱き、関連したものすらも全て馬鹿にしたくて仕方が無くなるという症状を持つ病気である。多くの高二病患者は自分の中二病は完治したと思い込んでいるが、自分を特別視するという本質は全く変わっていない上に他者を侮辱してまわる分、むしろ中二病の重篤化したケースとも言える。

中二病考察

中二病自体はそんなに悪いわけではない。どこの国でもいつの時代でも存在する、大人になろうと背伸びをした結果の、若さゆえのちょっぴり恥ずかしい行動にすぎない。その恥ずかしさの原因は現実からの乖離っぷりにある。

外国文化やアイドルなど華やかな世界、天才たちに憧れ、そうなろうとすることや自分もそのように振る舞うこと自体は、現実世界での話であり、理想の自分の到達点として実現可能である為、そこまで恥ずかしくはない。

むしろそれによってより素晴らしい大人になれる可能性すらある。たとえば世界一のスポーツ選手やスターに憧れ、その振る舞いを真似ることで彼らに少しでも近づけたのなら、それは決して悪いことではないはずである。

一般には中二病が自然治癒し、次第に社会に取り込まれ「普通の人」になってゆく過程を踏むが、時に中二病をこじらせ社会となじめず、引きこもり（ニート）になったりすることもある。

また、あえて中二病の治癒を遅らせて社会に取り込まれないにするケースもある。ある意味では、そうした人たちが芸術家や政治家、起業家、プロスポーツ選手などになっていくとも言える。